

# 重要魚種の卵稚仔及びプランクトンの研究

(水産資源調査・評価推進委託事業)

(予算区分 受託 研究期間 平成8年度～)

担当：資源海洋科 池田卓摩

## 【研究の背景とねらい】

国連海洋法条約批准に伴い、我が国周辺における漁獲可能量（TAC）の決定など資源の保存及び管理に関する措置が義務付けられ、重要魚種の資源評価のため、国の研究所を中心に、全国で各種データの収集・解析が実施されています。

静岡県では調査船を用いてイワシ類、サバ類の卵稚仔等の出現状況や分布を調べ、これら重要魚種の資源動向との関連性を検討しています。

## 【これまでに得られた成果】

(平成30年度の状況)

- 静岡県周辺の海域で毎月約26測点の調査を実施しました。
- 駿河湾及び遠州灘周辺におけるマイワシの平成30年1～6月の1測点あたりの卵、前期仔魚、後期仔魚の平均採集量は、前年を下回りましたが、過去10年平均を上回りました。一方、同期間のカタクチイワシの卵、前期仔魚、後期仔魚の平均採集量は、卵と前期仔魚は前年を下回り、後期仔魚は上回りました。また、いずれも過去10年平均を下回りました。
- マイワシ太平洋系群の資源動向は増加傾向、カタクチイワシ太平洋系群の資源動向は減少傾向にあり、卵稚仔調査の結果と同様の増減が見られます。
- 駿河湾及び遠州灘周辺におけるサバ類の平成30年1～6月の1測点あたりの卵、前期仔魚、後期仔魚の平均採集量は、いずれも過去最高の値となりました。マサバ太平洋系群は中位増加、ゴマサバ太平洋系群は中位減少傾向にあることから、今後のサバ類の卵稚仔出現量に注視する必要があります。



図1 卵稚仔採集風景

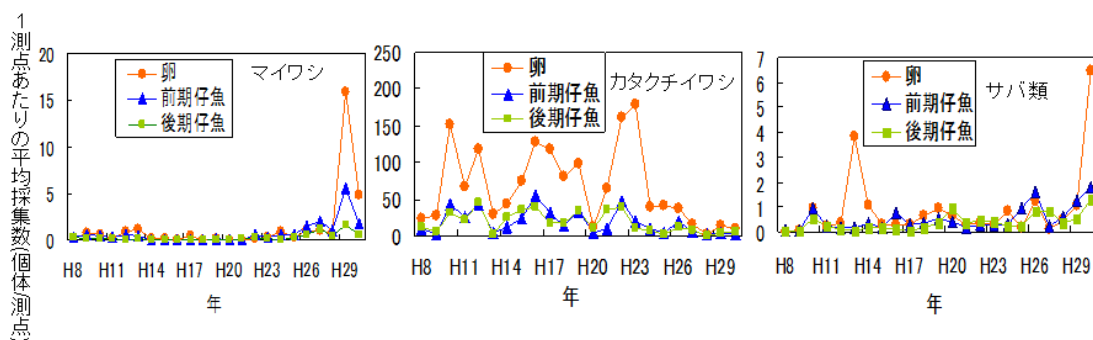


図2 マイワシ、カタクチイワシ、サバ類の卵稚仔1測点あたり平均採集数（1～6月）

## 【期待される効果】

- 全国の卵稚仔の出現情報が集積されることで、我が国周辺における重要魚種の資源評価や資源動向の情報として活用されます。

## 【今後の計画】

- 静岡県沿岸域における重要魚種の卵稚仔の出現状況と漁況との関係を検討します。  
(作成 平成31年4月)